

ラーニング・コモンズ「コラトリエ」における学生スタッフの活動 —2017年度の取り組みについて—

The Activity Report of 2017 about Student Staff in Learning Commons “Colatelier”

東北学院大学 ラーニング・コモンズ 遠海友紀

1. はじめに

現在、多くの大学で学生スタッフが活躍している。学生スタッフの活動内容や役割、名称は、その導入目的によって様々である。例えば、学生がTeaching Assistant やStudent Assistant (以下、SA) として授業中の支援に関わったり (岩崎・久保田・水越 2008、時任 2016)、ライティング・センターなどで大学院生がチューターとして文章チュータリングに関わる事例 (佐渡島・太田 2014) などがある。

学生を支援人材として登用することは、授業の円滑な実施や学習支援の充実だけでなく、学生スタッフとして関わる学生にとっても有益である。学生が学生スタッフとして活動することの教育効果として、SAとして授業中の支援に関わった学生の社会人としてのマナーやメディア活用能力が向上した (岩崎・久保田・水越 2008) ことや、文章チュータリングに関わることで、指導する力だけでなく、書き手としての力もチューター自身が伸びたと実感している (佐渡島・太田 2014) ことなどが報告されている。また、学生と図書館職員が協働して図書館の活性化を目指す活動を通して、学生が幅広い資料に接することによる「学習支援」や、図書館での業務体験を通して職業意識を育成する「キャリア形成支援」につなげている事例 (廣田・茂出木 2009) も報告されている。これらのことから、学生が学生スタッフとして活動する取り組みは様々あるが、学生スタッフとして活動する学生自身にも、学業やキャリア形成などの面で効果があることがわかる。

本稿では、大学における学生スタッフ活用の一事例として、東北学院大学ラーニング・コモンズ「コラトリエ」(以下、コラトリエ) の学生スタッフについて、導入初年度の取組みとその成果を報告する。筆者はコラトリエの教員として、学生スタッフの活動の検討、募集と採用、研修の企画と実施、活動のサポートに関わっている。

なお、本稿の情報 (学生スタッフの活動や研修の内容、学生スタッフとして活動した学生の学年など) は、2017年度の活動に関するものである。コラトリエの学生スタッフは2018年4月に名称をアカデミックサポーターに変更し、その活動や研修の内容は2017年度の活動やコラトリエの状況をふまえて再検討し、発展させたものとなっている。

2. ラーニング・コモンズ「コラトリエ」

ラーニング・コモンズは、主として学生を対象とし、学習支援のためのサービス、資料、設備を総合的にワンストップで提供する学習支援空間（呑海・溝上 2011）と言われている。東北学院大学のラーニング・コモンズであるコラトリエは、2016年9月に土樋キャンパスに開設され、運用を開始して2年4か月になる（2018年12月末時点）。ラーニング・コモンズは北米の大学図書館における新しい学習空間として普及してきた経緯から、日本の大学においても図書館に設置されることが多いが、近年図書館外に設置されるラーニング・コモンズも見られるようになってきた。コラトリエも図書館とは別に設置されたラーニング・コモンズである。

コラトリエはコンセプトがそれぞれ異なる「リエゾン」「コモンズ」「サヴォア」の3つのフロアで構成されている。カフェが併設されており、地域の人にも開放されているリエゾンは、通常時は自由に利用することができるが、公開講座やビブリオバトルなどのイベント会場としても利用されており、大学での学びを学外に発信する場にもなっている。

学生や教職員が利用できるコモンズとサヴォアでは、電子黒板や貸出しノートパソコン、デスクトップパソコン、プリンタなどの機器を利用することができる。また、ここには学習支援担当の教員がおり、必要に応じてセミナーや個別相談などの学習支援を受けることができる。

コラトリエは、学生の授業時間外の学習の場として活用されており、コモンズやサヴォアは、レポートや発表準備といった授業の課題や、資格試験に関する勉強など正課外の学習活動に取り組む学生で毎日にぎわっている（嶋田 2018）。コラトリエは土樋キャンパスにあるため、主な利用者は文学部・経済学部・経営学部・法学部の3・4年生であるが、泉キャンパスや多賀城キャンパスで普段授業を受けている学生の利用もみられる。

3. 2017年度コラトリエ学生スタッフの募集

コラトリエでは設置準備段階から、学生をスタッフとして活用することが検討されていたが、2016年9月のコラトリエ開室時においては、まず施設の運用を軌道に乗せることや教員による学習支援の検討・実施を優先した。そのため、コラトリエの学生スタッフは、試験的に2017年度6月から活動を開始し、9月に本格的に活動を始めることとなった。

2017年度は、6月から試験的に人間情報学研究科修士2年生1名が活動を開始し、9月に文学部歴史学科3年生2名と経済学部共生社会経済学科3年生1名が加わり、計4名での活動となった。6月から活動を始めた大学院生は、ラーニング・コモンズという施設に興味を持ち、コラトリエ開室前から、ラーニング・コモンズの教員と連携して図書館のアクティブラーニングスペースに関する調査に取り組むなどしていた。また、コラトリエを自身の修士論文のフィールドとした。9月から活動に参加した学部生3名は、コラトリエの学生スタッフ募集知って、

それぞれ応募してきた学生である。

3名の学部生を学生スタッフとして採用する際には、応募書類の提出を求め、それを踏まえた面談を行った。応募書類の内容は、名前、学部学科などの学生自身に関することから、特技や好きなこと、人に教えられると思うこと、学生スタッフに応募しようと思った理由、学生スタッフとしてやってみたいことなどについても聞いた。

応募の動機として、応募書類には「コラトリエを普段から利用しているのでそこで働くことは良い経験になると思った」、「生涯学習について学んだことから学習支援に興味があった」、「コラトリエをよく知らないで、学生スタッフの活動を通して自分でもコラトリエを積極的に活用できるようになりたいと思う」、などの記述がみられた。普段から施設を利用しているので良い機会だと捉えた学生もいれば、あまり馴染みの無い施設ではあるが、学生スタッフとして活動することで施設のことをよく知りたいという学生、学習支援に関する興味に応募の動機になった学生もあり、応募の動機は様々だった。

応募段階での、学生スタッフとしてやってみたいと思うことについては、「コラトリエの活用方法や運営について様々な人と話し合うことで、より良い空間作りをしたい」、「カウンター業務などを通してコミュニケーション力をあげたい」など、より良い施設の運営や環境について検討することや、コミュニケーション力の向上を期待する記述がみられた。

これら、応募書類に記述された内容に加え、面談ではアルバイトの経験や、コラトリエの利用状況（イメージ、よく使う場所、利用したことのある機器）、Microsoft officeや電子黒板、プロジェクタの利用に関するスキルなどについても聞いた。これらの内容を踏まえて採否を検討した。また、面談の回答内容を踏まえて活動開始前の研修の内容を検討した。

4. 2017年度後期 活動と研修

コラトリエが開室した2016年9月から2017年5月までの状況を踏まえ、学生スタッフは、まずは夕方の時間のカウンタースタッフとして、施設予約や機器貸出、機器操作などに関する質問対応などに取り組むこととした。実際には、カウンターでの利用者対応だけでなく、学生スタッフの存在を利用者に知ってもらうための掲示物や、公開講座のイベントレポートの作成にも取り組んだ。

学生スタッフの活動は、16:45～20:15であり、1回に2名が勤務するようにした。長期休暇期間や試験期間の活動は行っていない。活動時には名札をつけることや、活動時間を勤務表に記入すること、その日の活動内容やコラトリエの様子についてまとめた業務報告書を毎回提出することを求めた。

ラーニング・コモンズは大学の学習支援施設の1つである。そのため、そこで活躍する学生

スタッフは、利用者にとって学びの手本であってほしいと考える。そこで、コラトリエの学生スタッフは単なるアルバイトではなく、活動を通して自らも学ぶ姿勢を身につけ、よりよい学習者となることを活動の目的の1つとした。そのため、学生スタッフの活動が始まる前の9月に活動に関する半日の研修を1回、半期の活動を終えた3月に振り返りと翌学期に向けた半日の研修を1回実施した。また、学期中は毎月月末に、ミーティングを兼ねた90分の研修を実施した。これらの研修は、活動の一環として位置づけて実施したが、特に学期開始前と終了時の研修は全員参加とし、どうしても参加できない場合は別途、日を改めて対応することとした。それぞれの研修について、以下に説明する。

コラトリエの学生スタッフが本格的に活動を始める前である2017年9月9日に半日の研修を実施した。研修では、ラーニング・コモンズやコラトリエを知ってもらうこと、コラトリエの職員の紹介、コラトリエの学生スタッフ導入の意図や学生スタッフとして心がけてほしいこと、活動内容の説明などを行った。採用時の面談の際、コラトリエ内のICT機器の利用経験がほとんどないことがわかったので、一部の機器の操作確認も内容に取り入れた。また、該当学期に学生スタッフとして活動するメンバーが初めて全員で顔を合わせる機会となったため、お互いのことを知るためにアイスブレイクを兼ねた自己紹介なども行った。説明事項が多い研修であったが、自己紹介などでお互いに話をしたり、機器操作やカウンター業務の確認の際には、手順を確認しながら実際に体験したりする時間を取り入れることで、聞き疲れてしまわないように意識した。表1は、研修の内容を取り組み順に示したものである。

表1 活動開始前の研修（2017年9月9日）

内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介（アイスブレイク） ・資料配布 ・シフト確認 ・ラーニング・コモンズについて ・コラトリエの役割、施設の説明、スタッフ紹介 ・学生スタッフとしての活動と心構えについて説明 ・PCロッカーの使い方について説明 ・施設予約システム登録 ・機器の使い方について説明、操作確認（プロジェクタ、電子黒板）
昼食
<ul style="list-style-type: none"> ・カウンター業務について説明 ・施設予約システムの使い方について説明 ・閉室作業、環境整備について説明
休憩
<ul style="list-style-type: none"> ・業務報告書の書き方と提出について説明 ・目標設定と自己調整学習について説明

この研修には、2017年度後期に活動した4名全ての学生が参加した。研修当日、説明で使用したスライドを抜粋したもの、コラトリエのパンフレット、カウンター業務マニュアル、9月のシフト表、防災マニュアル、機器操作マニュアル（プロジェクタ、電子黒板、書画カメラ、スキャンスナップ）を資料として紙ファイルと一緒に配布した。紙ファイルには、今後の研修などで配布される資料をファイリングするよう指導した。

機器操作やカウンターでの受付対応は、説明を聞いただけではできるようにならないので、各自活動に取り組む際にマニュアルを確認したり、わからないことがあった場合は、コラトリエの教職員や嘱託職員に確認して対応するよう伝えた。2017年9月11日から学生スタッフの活動を開始したが、慣れるまではコラトリエの教職員がサポートにあたった。特に、同じ時間に勤務に入った嘱託職員には様々なフォローをしてもらった。

通常勤務と並行して毎月1回月末に、研修を兼ねた90分のミーティング（以下、月末ミーティング）を実施した。月末ミーティングでは、翌月のシフト確認、1か月の情報共有、1か月の振り返りと翌月の目標設定を毎月行い、必要に応じて検討事項についての話し合いなども行った。2017年度後期は、9月、10月、11月、12月、1月の計5回、月末ミーティングを実施した。表2は10月の月末ミーティングの内容を取り組み順に示したものである。

表2 10月末ミーティング（2017年10月30日）

内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務表の確認 ・11月のシフトの確認 ・10月の目標の振り返り：自己評価【目標設定ワークシート10月用】 ・検討事項：荷物かごの設置について ・10月の目標の振り返り：共有 →11月の目標を設定【目標設定ワークシート11月用】 ・その他連絡事項など確認

毎月の月末ミーティングの内容は、表2とほぼ同じ内容である。毎回、翌月のシフト表を配布し、その他にも必要に応じて配布資料を用意した。月末ミーティングでは、学生スタッフの活動を学生スタッフ自身の成長につなげるため、目標を設定し振り返る機会を毎回設定した。目標は、毎月その月の活動を振り返り、それを踏まえて全員で共通の翌月の目標を設定する。そのあと、目標達成に向けた個人の具体的な取り組みを検討した。翌月末のミーティングで、目標の達成度合いや、反省点、よかった点、今後に向けてのコメントをワークシートに各自記録し、それぞれがどのような活動に取り組み、どう振り返ったのかを全員で共有した。振り返りに用いたワークシートは、一度回収し、教員が記録としてPDFにデータ化した後、各自に

返却し、ファイルに綴じて保存するように指示した。

目標設定と振り返りの過程は、自己調整学習のプロセスを基に設計した。目標設定や振り返りでは、ワークシートを用いて全員で共通の目標を立てるだけでなく、個人で目標達成に向けた具体的な行動計画を立てたり、目標に対する1か月の活動を振り返ったりする時間と、振り返った内容を全員で共有することで、他のメンバーの考えを聞く機会を設けた。これは、自分自身で考える習慣を身に付けることと、他者の意見を聞くことで自分の考えを深められるようにする意図があった。

学生スタッフには、9月の半日研修や毎回の月末ミーティングで、大学生として卒業までに修得が求められる力として学士力や社会人基礎力を紹介したうえで、自己調整学習のサイクルや、自己調整を意識して活動に取り組むことで期待できる成果について説明した。これらを踏まえ、目標設定や振り返りをしながら活動に取り組むことで、学生スタッフとしてだけでなく、自分自身の学生生活においても、自ら目標設定や振り返りができる力をつけてほしいという意図を伝えた。

後期の活動が終了した2018年3月30日に活動を振り返り、翌年度へつなげるための半日研修を実施した。この研修では、半年間の活動をしっかり振り返り、次年度の活動につなげることを目的として内容を検討した。そのため、どういった活動に取り組んだのかを振り返ることで半年の活動内容の整理を行い、その後、そのために必要な力はどういったものかを検討した。また、学生スタッフとしての活動や経験が役に立った場面や、次年度の活動に向けた抱負を考えるワークも取り入れた。表3は、研修で取り組んだ内容を取り組み順に示したものである。

表3 後期終了後の研修（2018年3月30日）

内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の目的、内容の共有 ・資料配布 ・来年度の活動予定の説明
<ul style="list-style-type: none"> ・活動の振り返り (1) 【ポストイットを用いた個人作業→全員で共有・整理】 <ol style="list-style-type: none"> 1. この半期取り組んだ活動 2. それぞれの活動に必要な力、知識 ・活動の振り返り (2) 【ワークシートを用いた個人作業→共有】 <ol style="list-style-type: none"> 1. 今学期、活動してよかったと思うこと 2. 今学期の活動や経験が役に立った場面 3. 次年度の活動に向けた抱負
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務表の確認 ・その他連絡事項など

この研修には、学生スタッフ4名のうち、3名が参加した。欠席した1名については、別日に説明事項を伝え、ワークシートを用いた振り返りを行った。また、研修で他のメンバーが整理した意見を共有した。当日は、説明につかたスライドを抜粋したもの、振り返りに使うワークシートを資料として配布した。また、活動の振り返り（1）では、模造紙やポストイット、マジックなどを用いた。

活動の振り返り（1）では、まずこの半期に取り組んだ活動を思いつく限り、個人でポストイットに書きだす作業を行った。それを模造紙に貼り出して共有し、話し合いながら分類した。その結果、学生スタッフが取り組んだ活動は、①環境整備・見回り、②利用者対応、③閉室作業、④イベントサポート、⑤掲示物作成、⑥書類作成、⑦その他、の7つに整理された。②利用者対応には、施設予約・貸出の対応と合わせて、電子黒板やプロジェクタなどの機器の操作方法を説明する機会が多くあったことがわかった。

7つに整理された活動に取り組むために必要な力や知識はどういったものか検討した結果、①コラトリエについての知識、②聞く力、③対応力、④伝える・説明する力、⑤リーダーシップ、⑥企画・提案力、⑦気づく力、⑧ICTに関する知識、の8つに整理された。特に④伝える・説明する力に関する記述が多くみられた。また、力や知識以外にも、笑顔、機敏さ、利用者目線、思いやり、計画性、環境をよくする意識、向上心、好奇心や責任感も重要であるという結論になった。

学生スタッフの募集に際して、募集要項に書いた活動内容は「主にコラトリエのインフォメーションカウンターでの対応」という大まかなものであったが、今回の振り返りを通して、学生スタッフが実際に取り組んだ活動をより具体的にすることができた。また、実際にその活動に関わった学生スタッフ自身が整理した活動に必要な力・知識・意識についての観点は、今後の学生スタッフの活動や研修を考える上で貴重な知見となる。なお、活動の振り返り（2）の内容は、次の「5. 2017年度後期 学生スタッフの成長」でまとめる。

5. 2017年度後期 学生スタッフの成長

2017年度はコラトリエにおける学生スタッフ導入の初年度であったため、運営側であるコラトリエの教職員も、募集から面接、研修、実際の活動など、全てにおいて、手探りかつ試行錯誤しながら取り組んだ半年だった。活動開始当初の学生スタッフの活動は、カウンターでの利用者対応や環境整備が主になっていたが、活動に慣れるにしたがって、公開講座に参加してレポートを書いたり、掲示物を作成したりすることもできるようになった。学生スタッフを導入した成果として、コラトリエでの利用者対応や環境整備に学生の視点を取り入れることができたことや、学生スタッフとして活動した学生たちの成長が挙げられる。

本稿では、学生スタッフとして活動した学生の成長を成果の1つとして捉え、2018年3月に実施した研修において扱った「活動の振り返り (2)」の内容をまとめる。この振り返りはワークシートの各項目について個人で振り返り、記述を求めた。【学生スタッフとして活動してよかったと思うこと】では、「ICT機器利用方法を知った」、「PowerPointが扱えるようになった」、「コラトリエについて知ることで利用者としても使いやすくなった」、などの意見がみられた。【学生スタッフの活動や経験が役に立った場面】では、「友人が困っているときにコラトリエを紹介することができた」、「就職活動のグループディスカッションの際に学生スタッフとしての経験が役に立った」、という意見がみられた。また、コラトリエを調査フィールドとし、チームワーク力をテーマに修士論文に取り組んだ大学院生のスタッフは、「コラトリエの利用者の様子を見ることができ、考察を考える際に参考になった」と記述していた。

【活動を経験してできるようになったこと】では、説明したり意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりするなどのコミュニケーション力が向上したことや、電子黒板やパソコンなどのICT機器の取り扱いに詳しくなったことなどが、できるようになったこととして挙げられた。その反面、【半年の活動を振り返って感じた課題】では、ICT機器の利用に不慣れな点があることから自信を持って説明できないことがあることや、学生スタッフ内での円滑な情報共有の難しさが課題として挙げられた。ここでは反省点だけでなく、「もっと学生と関わる経験をしたい」、「利用者のニーズを知りたい」など、今後の活動で取り組みたい活動についての記述もみられた。

今回、活動の成果として、4つの観点で振り返ってもらったが、それぞれで出た意見を整理すると、大きく、「コミュニケーションに関すること」、「ICT機器の操作に関すること」、「コラトリエの利用に関すること」の3つに整理できる。コミュニケーションやICT機器の操作については、できるようになったこととして挙げられた一方、もっとできるようになる必要があることとしても挙げられている。今後、学生スタッフの活動に継続して取り組むことで、経験を通して知識や力をつけていくことが期待できるが、それを支える機会の提供も必要であると考えられる。また、学生スタッフとしての経験が就職活動や修士論文に取り組む際に役立ったことなども記述されており、学生スタッフの活動以外の場面でも、学生スタッフとしての経験が活かされていたことがわかった。さらに、学生スタッフとして活動することで、コラトリエのことをよく知り、友人に紹介するだけでなく、学生スタッフ自身も一利用者として、よりよくコラトリエを活用できるようになっていたことがわかる。コラトリエでは、積極的に広報活動にも取り組んでいるが、学生同士の情報共有は重要な広報手段の1つであり、これも学生スタッフの活動の成果としてとらえることができる。

2017年度後期に活動した4名の学生スタッフは、次年度も活動の継続を希望していた。そのため、今回の振り返りの最後に、【次年度の活動に向けた抱負】についても聞いた。その結果、

「積極的に学生と関わりサポートする」、「学生スタッフとしての活動の基盤を固めたい」、「機器に関する知識を向上させる」、「新しく入ってくる学生スタッフをフォローする」、など課題として挙げた事柄の改善・向上だけでなく、新しいメンバーのサポートを意識するなど、今後の学生スタッフの活動をよりよいものにしようとする姿勢をみることができた。これらのことから、学生スタッフとしての活動にやりがいを感じ、継続的な視点を持って振り返りができていたことが想定される。

これらのことから、学生スタッフとして活動することで、学生たちは自分たちの成長と課題を把握するとともに、自身の学業や就職活動といった学生スタッフの活動以外の場面でも、学生スタッフとして経験したことを活かしていたことがわかった。これらは、学生スタッフとして活動する学生たちにとって有益であるといえる。また、彼らは、活動にやりがいを感じ、継続の意思を示すとともに、明らかになった課題を改善していくことや、新しく入ってくる後輩学生スタッフをサポートすることを通して、学生スタッフとしてよりよい活動ができるようになることを目指す意欲を持っていることがわかった。学生スタッフの活動は、学生の卒業などでメンバーが入れ替わっても、先輩後輩の間で知見や技術が継承され、活動は継続していくものである。学生自身が活動に対する向上心を持つことは、学生スタッフの活動を継続していく上で大きな力となる。

6. 今後の課題など

2017年度は、コラトリエの学生スタッフの導入初年度であった。試行錯誤の中、無事2017年度の活動を終え、2018年度の活動に移行できたのは、2017年度に学生スタッフとして活動した学生の努力や向上心、学生スタッフの活動のサポートに関わった教職員の支えあってのものである。コラトリエの開設準備段階から、学生スタッフの導入は検討されていたものの、開室後のコラトリエの状況を踏まえて具体的な活動内容を検討する必要がある。2017年度は、まず第一歩としてカウンターでの利用者対応を主な活動内容としてスタッフを募集したが、後期終了後の振り返りで明らかになった学生スタッフの活動内容は様々であった。どのような知識や能力、意識が学生スタッフの活動に取り組む際に必要なのかについても、整理することができたので、必要に応じて順次、学生スタッフの今後の研修内容として扱う予定である。

2018年4月にコラトリエの学生スタッフは、名称をアカデミックサポーターに変更し、利用者である学生の学びにより寄与できるよう、少しずつ範囲を広げて活動を展開している。2018年度に新たにメンバーとして加わった5名に加えて、2017年度後期に学生スタッフとして活動していた4名のうち、3名が継続して活動に参加している。彼らは研修で、新しく加わったメンバーにICT機器の操作方法を説明する役割を担ったり、自分たちで研修を企画・実施したり

するなど、2017年度後期終了後の研修において、【次年度の活動に向けた抱負】として挙げた内容に積極的に取り組んでいる。

今後も学生スタッフの活動が、コラトリエの利用者にとって、また、学生スタッフとして活動する学生にとってよりよいものになるよう、取り組みを進める必要がある。そのためには、コラトリエの状況を継続的に観察し必要な支援を検討することや、学生スタッフの活動による、コラトリエの運営への成果、学生への成果について継続して検証し、知見を蓄積していく必要がある。

参考文献

- 岩崎千晶・久保田賢一・水越敏行（2008）「組織的な教員支援としてのスチューデント・アシスタントの効果と課題」
日本教育工学会論文誌32（Suppl.） pp.77-80
- 佐渡島紗織・太田裕子（2014）「文章チュータリングに関わる大学院生チューターの学びと成長－早稲田大学ライティング・センターでの事例－」国語科教育75、pp.64-71
- 嶋田みのり（2018）「東北学院大学ラーニング・コモンズ「コラトリエ」の利用実態からみる現状と課題」東北学院大学教育研究所報告集、第18集、pp.17-30
- 時任隼平（2016）「アクティブラーニング型授業において受講生がスチューデント・アシスタントに求める能力に関する研究」日本教育工学会論文誌40（Suppl.） pp.169-172
- 呑海沙織・溝上智恵子（2011）「大学図書館におけるラーニング・コモンズの学生アシスタントの意義」図書館界63巻2号、pp.176-184
- 廣田未来・茂出木理子（2009）「学生と図書館の協働の可能性－御茶の水女子大学LiSAプログラムについて－」大学図書館研究87、pp.1-8

付記

本調査はJSPS科研費17K12949の助成を受けたものである。